

保育科学生のための音楽教育（6）

実習での活動を通して振り返るピアノ技術の自己評価と課題

Music education for students of the childcare department（6）

Self evaluation and task of piano skills reviewing through activities during practical training

田原淑子

Yoshiko Tahara

要 約

教育実習や保育実習は、学生にとってそれまでの学内での学びのすべてを結集し、成果と課題を認識する貴重な体験である。又実習では実体験の現場でなければ身につけられない具体的で感覚的な学びを経験し、今後に向けて大いに成長するステップでもある。弾き歌い等人前で「ピアノを弾く」という音楽に関する活動においても、出来るだけ多くを経験し成長の糧となつてほしいと願っている。本研究は、実習での音楽活動について調査し実態を把握するとともに、学生自身の振り返りと反省等をふまえ、2年間という短い養成期間ではあるが現場に出た時すこしでもスムーズな音楽活動ができるための学内での指導にむすびつけ、活かしたいと考えるための考察である。

はじめに

本学保育科に入学した学生は、保育技術の学びとしてピアノの授業を受講し、特にピアノⅠは卒業必修科目でもある。1年生でピアノⅠを、2年生では選択科目になっているピアノⅡについてもピアノⅠを再履修となった学生以外ほぼ全員受講している。技能の上達は継続的な練習を必要とする。ピアノの基礎的な技能を固めるとともに、保育現場ですぐに役立つ弾き歌い曲を課題曲として設定し、1年生の前期半ばより取り組ませている。まず生活の歌として、「おかたづけ」「朝のうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「菌をみがきましょう」を1年生（ピアノⅠ）前期弾き歌い曲の課題としている。比較的演奏が簡単であり、幼児の歌によく使用される付点のリズムが多用されているためその後に取り組む曲の練習になる事、さらに現場での使用頻度が高いという理由で選曲している。後期には弾き歌い曲を中心に30曲の課題曲を設定し、学生の弾きこなせる技量にもよるが出来るだけ多くの曲に取り組ませている。

1年生は11月に最初の実習として教育実習に、また2月～3月には保育実習に出る。2年生での責任実習を含む実習に比べて、1年生は見学と参加という形の実習である。それでもその際にピアノを弾く機会を与えられた時、間に合うように1年生後期の弾き歌い課題曲に「とんぼのめがね」や「まっかな秋」、「どんぐりころころ」等の秋の曲を、また「うれしいひなまつり」などその季節に合う曲を設定している。また2年生の6月の教育実習に向けて、「あめふりくまのこ」や「たなばたさま」「アイスクリームの歌」など梅雨どきから夏にかけての曲も課題曲に組み入れている。さらに1年から2年に上がる春休みには「あめふり」「かたつむり」「うみ」「雨の日の遊園地」等の曲を宿題として出しオーソドックスな曲を中心に実習との兼ね合いも考慮し課題を設定している。2年生でのピアノⅡの後期授業における弾き歌い曲は1年生でのピアノⅠとは別な課題を設定している。少し難易度が上がった曲、表現の幅を広げるような曲、また2月～3月に行く就職先の研修でも使える様に「1年生になったら」「ドキドキドン！1年生」等の卒園近くに取り

上げられる曲を設定している。このような流れでピアノの授業は展開しているが、実習でその成果が出ているか、その実態を調査する必要があると考える。

調査研究

I) 目的

本稿では、学生が入学して1年余りのピアノの授業を受けた後、2年生での本格的な実習における音楽活動について調査し、学生の自己評価や振り返りを含めて学内での指導等の課題を考察することが目的である。

II) 方法

質問紙による調査を行った。

調査項目

1. 弾き歌い曲等のピアノを弾いたかどうか
2. どんな時弾いたか（場面）
朝の会・帰りの会・担任の保育中・設定保育の中・
昼食時やおやつ時・その他
3. 2のそれぞれの時についてどんな曲を弾いたか
4. 2のそれぞれの時について弾いた回数
1～3回・4～6回・7～10回・それ以上
5. 2のそれぞれの時について弾いた時期
実習の初めから・中頃から・終わり頃
6. 自己評価
自分の出来栄（1～5 数値が高いほど良い評価）
7. 設定保育の主な内容に選んだものは下記のどれか
音楽系・図画工作系・体育系
音楽系をした場合の具体的内容の記述
8. 音楽活動についての感想等の自由記述
9. その他手遊び等について

時期 2017年6月末（教育実習終了後）

2017年9月末（保育実習終了後）

対象：2年生（実習参加・質問紙提出81名）

III) 結果及び考察

まず1の項目について、教育実習および保育実習についての比較を行った。2年生での保育実習はⅡとⅢに分かれ（どちらかを選択）、Ⅲは施設実習であるためほとんどピアノを弾くなどの音楽的な活動は行われないようである。本調査においても、施設実習をした学生はピアノを弾かなかったと回答しているため、保育実習全体（Ⅱ・Ⅲ）と保育実習Ⅱのみを集計した場合を並べて表記した。

表1

実習中に弾き歌い曲等のピアノを弾いたかどうか			
	弾いた	弾かなかった	合計
教育実習	59名	22名	81名
	73%	27%	100%
保育実習 （Ⅱ・Ⅲ）	47名	34名	81名
	58%	42%	100%
保育実習 （Ⅱのみ）	47名	19名	66名
	71%	29%	100%
保育実習Ⅱ（保育園・保育所・認定こども園）			
保育実習Ⅲ（施設）			

教育実習を行った81名中59名、また保育実習Ⅱを行った66名中47名がピアノを弾いたと回答し、どちらも7割弱の学生が経験し、約3割の学生は経験しないというほぼ同じような結果であった。

次に掲げるのはピアノを弾いたと回答した学生について調査項目2・4・5をまとめたものである。

表2-1および表2-2を参照

また1人の学生がいくつかの時（場面）でピアノを弾く可能性があり活動のすべてを記入してもらったため複数回答となっている。表2は各場面に演奏した回数（頻度）と実習の中でその時期を区分しそれに該当する人数を示すものである。

朝の会や帰りの会の場面でピアノを弾く活動は教育実習でも保育実習でも表1で「弾いた」と回答した人数の約半数が行っている結果であった。園の先生の保育中というのは、配属クラスの担任の先生のお手伝い的に弾かせてもらった場合である。教育実習では59名中12名で20%、保育実習では47名中12名で約25%となる。朝の会、帰りの会、園の先生の保育中いずれも実習の中頃より頻繁にピアノを弾かせてもらっていることが分かる。

教育実習では昼食時やおやつ時にもよく弾き歌いをしていくことが判明した。食事やおやつの準備中や直前に「おべんとう」やそれを給食バージョンにしたものを中心に歌われている。しかし案外保育実習ではそうでもない。食事の場面では、まだ年齢の低い乳幼児を含む園児の援助に手を足らるためなのか弾き歌いの活動は少ない。教育実習では実習の初めよりかなりの頻度で弾き歌いをさせてもらっている点とは、大きく違っている。

表2-1

弾いた場面	回数	時期	教育実習	保育実習	
			(59名)	(47名)	
			人数	人数	
朝の会	1～3回	初めから			
		中頃から	7名	5名	
		終わり頃	5名	4名	
	4～6回	初めから	2名		
		中頃から	4名	6名	
		終わり頃			
	7～10回	初めから	4名	6名	
		中頃から	4名	2名	
		終わり頃			
	それ以上	初めから	3名		
				計29名	計23名
	帰りの会	1～3回	初めから	2名	
中頃から			11名	7名	
終わり頃			7名	7名	
4～6回		初めから	2名		
		中頃から	4名	6名	
		終わり頃			
7～10回		初めから	5名	6名	
		中頃から	4名	2名	
		終わり頃			
それ以上		初めから	1名		
			計36名	計28名	
園の先生の 保育中		1～3回	初めから	1名	1名
	中頃から		5名	4名	
	終わり頃			3名	
	4～6回	初めから			
		中頃から	2名	2名	
		終わり頃			
	7～10回	初めから	1名	1名	
		中頃から	1名		
		終わり頃		1名	
	それ以上	初めから	2名		
				計12名	計12名

弾いた場面にお祈り時とあるのは、仏教系やキリスト教系の園での実習が含まれているからである。その他は降園時のお迎えを待つ間などの自由時間である。

設定保育の主な内容の調査項目7に関する回答は表3のような結果であった。音楽の内容での設定保育を行う学生はとも少ない。しかし、設定保育の中に音楽活動を入れているのは教育実習では59名中16名で27%、保育実習では47名中16名で34%とそれなりに音楽活動は行っている。

表3

設定保育の種類	教育実習 (59名)	保育実習 (47名)
音楽系	0名	1名
図画工作系	47名	33名
体育系	5名	9名
音楽系と図画工作系	6名	1名
図画工作系と体育系	1名	3名

表2-2

弾いた場面	回数	時期	教育実習	保育実習	
			(59名)	(47名)	
			人数	人数	
設定保育	1～3回	初めから			
		中頃から	7名	2名	
		終わり頃	7名	11名	
	4～6回	初めから			
		中頃から	1名	1名	
		終わり頃		2名	
	7～10回	初めから			
		中頃から			
		終わり頃	1名		
	それ以上				
				計16名	計16名
	昼食時 おやつ時	1～3回	初めから	1名	
中頃から			7名	1名	
終わり頃				3名	
4～6回		初めから	3名		
		中頃から	6名	2名	
		終わり頃			
7～10回		初めから	2名	1名	
		中頃から	2名		
		終わり頃			
それ以上		初めから	1名		
		中頃から	1名		
			計24名	計7名	
お祈り時 その他	1～3回	初めから			
		中頃から	2名	1名	
		終わり頃	2名		
	4～6回	初めから			
		中頃から	1名		
		終わり頃			
	7～10回	初めから	1名		
		中頃から	1名		
		終わり頃			
	それ以上				
				計7名	計1名

これらのことは設定保育の主な内容が音楽系、図画工作系、体育系いずれにしても、その中で弾き歌い等を取り入れて行っていることを示している。

音楽系の設定保育をしたと回答した学生は、具体的内容として次のようなことを挙げている。

- ・歌唱指導(かたつむり・南の島のハメハメハ大王)
- ・リズム遊び(かえるのがっしょう・おもちゃのチャチャチャさんぽ)【カスタネットを使用している】
- ・リミック

音楽の指導はかなり学生にとってハードルが高く難しいと感じているようである。音楽に対して特に人前でピアノを弾くことに苦手意識があるためと考えられる。

次にそれぞれの場面で弾いたとして挙げた弾き歌い曲のリストと人数をまとめたものを表4で示す。

また、ピアノを弾いた時(場面)の数を集計したものを表5で示す。

表4-1 教育実習		曲名の横の数字はその曲を弾いた人数											
		朝の会		帰りの会		園の先生の保育中		設定保育		昼食時・おやつ時		その他	
1	かたつむり	11	おかえりのうた	15	かたつむり	7	かたつむり	5	かたつむり	10	さんぽ	2	
2	朝のうた	9	かたつむり	8	あめふりくまのこ	4	朝のうた	3	朝のうた	6	ぞうさん	2	
3	園歌・お祈り等の歌	8	園歌・お祈り等の歌	5	しゃぼんだま	3	あめふりくまのこ	3	あめふりくまのこ	5	たなばたさま	2	
4	たなばたさま	8	あめふりくまのこ	5	たなばたさま	3	園歌・お祈り等の歌	3	園歌・お祈り等の歌	4	アイアイ	1	
5	あめふり	6	とけいのうた	5	アイアイ	2	おかえりのうた	3	おかえりのうた	4	アイスクリームの歌	1	
6	あめふりくまのこ	6	あめふり	4	とけいのうた	2	とけいのうた	3	かえるのがつしょう	3	いぬのおまわりさん	1	
7	かえるのがつしょう	6	大きな古時計	3	かえるのがつしょう	2	かえるのがつしょう	2	アイスクリームの歌	2	かたつむり	1	
8	とけいのうた	6	かえるのがつしょう	3	アイスクリームの歌	1	アイスクリームの歌	2	バスごっこ	2	かえるのがつしょう	1	
9	アイスクリームの歌	4	しゃぼんだま	3	いぬのおまわりさん	1	うたえバンバン	1	うたえバンバン	2	かたつむり	1	
10	おはようのうた	4	たなばたさま	3	さらさらぼし	1	大きな古時計	1	大きな古時計	2	さらさらぼし	1	
11	しゃぼんだま	4	good bye	2	ことりのうた	1	おぼけなんてないさ	1	おぼけなんてないさ	1	あめふり		
12	ニューニョの天気予報	2	おもちゃのチャチャチャ	2	すてきなパパ	1	おはようのうた	1	おはようのうた	1	さんぽ		
13	おとうさん	2	さよなら明日もね	2	ながぐつマーチ	1	おもちゃのチャチャチャ	1	おもちゃのチャチャチャ	1	せんせいとおともだち		
14	Hello!How are you	2	さんぽ	2	バスごっこ	1	さんぽ	1	さんぽ	1	とけいのうた		
15	うたえバンバン	2	ニューニョの天気予報	2	歯を磨きましょう	1	にじ	1	にじ	1	歯を磨きましょう		
16	おぼけなんてないさ	2	バスごっこ	2	ホ！ホ！ホ！	1	ニューニョの天気予報	1	ニューニョの天気予報	1			
17	あめの遊園地	1	おぼけなんてないさ	1	みずあそび	1	南の島のハハメハ大王	1	南の島のハハメハ大王	1			
18	さんぽ	1	ツッピンとびうお	1	ゆりかごのうた	1							
19	ジャングルポケット	1	みずあそび	1									
20	ぞうさん 他12曲	1	他6曲	1									

表4-2 保育実習		曲名の横の数字はその曲を弾いた人数										
	朝の会		帰りの会		園の先生の保育中		設定保育		昼食時・おやつ時		その他	
1	とんぼのめがね	16	おかえりのうた	21	とんぼのめがね	5	とんぼのめがね	9	おべんとうのうた	3	さんぽ	1
2	朝の歌	14	とんぼのめがね	12	おぼけなんてないさ	2	どんぐりころころ	3	おひるがきました	2	どんぐりころころ	1
3	どんぐりころころ	8	どんぐりころころ	6	山の音楽家	2	アイアイ	1	おやつ	2	バスごっこ	1
4	おぼけなんてないさ	3	アイアイ	3	アイスクリームの歌	1	いとまき	1	とんぼのめがね	2	まつぼっくり	1
5	アイアイ	2	おぼけなんてないさ	3	エイトマンゴーゴー	1	エイトマンゴーゴー	1	アイアイ	1		
6	おはようのうた	2	さようならのうた	3	おかえりのうた	1	大きな栗の木の下で	1	どんぐりころころ	1		
7	さんぽ	2	いぬのおまわりさん	2	くじらのバス	1	おかえりのうた	1	もぐもぐぼくぼく	1		
8	バスごっこ	2	さんぽ	2	世界中のこどもたちが	1	おぼけなんてないさ	1				
9	ぼくのミックスジュース	2	やきいもグーチャーパー	2	どんぐりころころ	1	おはながわらった	1				
10	虫の声	2	おもちゃの子チャチャチャ	1	バスごっこ	1	こもりうた	1				
11	スイカの名産地	1	ぞうさん	1	バナナのおやこ	1	しゃぼんだま	1				
12	ぞうさん	1	バスごっこ	1	はまべのじゃんけん	1	世界中のこどもたちが	1				
13	でぶいもちゃんちびいもちゃん	1	ふしぎなポケット	1	もぐもぐぼくぼく	1	どんな色がすき？	1				
14	どんな色がすき？	1	虫の声	1	やぎさんゆうびん	1	ぼんぼこたぬき	1				
15	山の音楽家	1	山の音楽家	1	夢をかなえてドラえもん	1						

表5-1 ピアノを弾いた場面の数		表5-2			
場面数	どの場面でピアノを弾いたか	教育実習(59名)		保育実習(47名)	
		人数	合計人数	人数	合計人数
1	①(朝の会)	5名	23名	3名	21名
	②(帰りの会)	7名		5名	
	③(担任の保育中)	2名		2名	
	④(設定保育)	3名		8名	
	⑤(昼食時・おやつ時)	5名		2名	
	⑥(その他)	1名		1名	
2	①・②	5名	18名	9名	16名
	①・③			2名	
	①・④	2名			
	②・③			1名	
	②・④	1名		3名	
	②・⑤	5名		1名	
	②・⑥	1名			
	③・④	2名			
	③・⑥	2名			

場面数	どの場面でピアノを弾いたか	教育実習		保育実習	
		人数	合計人数	人数	合計人数
3	①・②・③		8名	3名	6名
	①・②・④	2名		1名	
	①・②・⑤	6名		2名	
4	①・②・③・④		8名	3名	4名
	①・②・③・⑤	2名		1名	
	①・②・③・⑥	1名			
	①・②・④・⑤	4名			
	①・②・④・⑥	1名			
	①・②・⑤・⑥				
5					
6	①・②・③・④・⑤・⑥	2名			

教育実習は6月に行われたのでどの場面でも「かたつむり」、「あめふり」、「あめふりくまのこ」、「かえるのがっしょう」等の梅雨時の曲と「時の記念日」にちなみ「とけいのうた」や「大きな古時計」、また7月の七夕に向けて「たなばたさま」を、よく弾かせてもらっている。1年生から2年生にかけて学内で課題曲として練習してきた曲である。よって学生もそれらの曲を選んで弾いた可能性が高い。季節に合う曲はもちろんのこと「バスごっこ」、「アイスクリームの歌」「ニャニニョの天気予報」「しゃぼんだま」「さんぽ」「おぼけなんてないさ」など幼児の歌の定番となっている曲は季節や園の生活のどの場面と限定することなく弾かせてもらっている。また学生に実習園から事前に課題として出されることが多い園歌やお祈りの曲なども朝の会や帰りの会で弾かせてもらっている。

保育実習では、季節的にやはり夏から秋の曲がどの場面においても多く出てきている。「おぼけなんてないさ」「とんぼのめがね」「どんぐりころころ」「虫の声」などである。

2つの実習において、学生は学内での学習曲を良く活用しているといえる。それ以外にも園からの課題として出された曲も含み、実に多くの曲が挙げられている。特に教育実習において朝の会や帰りの会では曲数が多く弾かれていることがわかった。生活の歌として1年生の前期でほぼ全員学習してきた「朝のうた」「おかえりのうた」「おべんとう」は弾いた人数が多く活用できたことで、練習の必要性とレパートリー曲として実感できたことであろう。

1つの場面において1曲～2曲弾いたという学生もいれば、10曲以上弾いた学生もいる。さらに表5-1. 2で示したようにピアノを弾いた場面が1から6と幅がある。極端な例として考えると、6つのすべての場面でいろいろな曲を弾いた学生がいる一方、ある1つの場面で1曲だけ弾いた学生もいるわけである。一切ピアノを弾かなかった学生もふくめて考えると経験の量的な差はとても大きいといえる。また質問紙の回答を精査していくと、1つの場面で多くの曲を弾いている学生は複数の場面でも弾いている傾向にある。様々な場面での経験を積むことでより一層の学びになっている。この点からも、あまり弾く機会がなかった学生との質的な学びの差も生まれているのではないだろうか。実習は受け入れ園の協力で成り立っている

るので無理は言えないが、実習園の諸事情、時期的あるいは時間的な都合など、また学生の積極性の問題で音楽の活動にも違いが出ることは否めない。しかし、出来るだけ機会を逃さず積極的に、活動を行ってほしいと考える。ちなみに調査項目9の手遊び等の活動に関して、教育実習中にピアノを弾かなかったと答えた学生(22名)のうち10名、ピアノを弾いた学生(59名)のうち3名が行わなかったと回答している。保育実習Ⅱでは、ピアノを弾かなかった学生(19名)のうち6名、弾いた学生(47名)のうち5名が行わなかったと回答している。そして弾き歌い曲のピアノを多く弾いた学生ほどたくさんの手遊びを行っている傾向にある。曲目はいずれの実習も「コロコロたまご」「ワニの家族」「ピカチュウ」「とんとんとんひげじいさん」「はじまるよ」「あおむし出たよ」「メロンパン」「いとまき」「ミックスジュース」「山小屋いっけん」「グーチョキパーで何作ろう」「食いしん坊のゴリラ」等をはじめ、ひげじいさんの替え歌にした「アンパンマン」ものなど多く挙げられていた。一部施設でも手遊びは行われていた。

学生の弾き歌いのピアノの自己評価については次のような結果となった。(評価低い1→2→3→4→5高い)

自己評価	1	2	3	4	5	不明	
教育実習	1名 1.7%	18名 30.5%	24名 40.7%	12名 20.3%	2名 3.4%	2名 3.4%	59名 100%
保育実習	1名 2.1%	8名 17.0%	18名 38.3%	19名 40.5%	1名 2.1%		47名 100%

6月の教育実習と比べて、最後の実習となる夏の保育実習の方が全体的に高いことが分かった。パーセンテージで見ると教育実習の評価2と評価3を合わせて約71%、評価3と評価4を合わせて61%である。また保育実習Ⅱの評価2と評価3を合わせて約55%、評価3と評価4を合わせて、約79%となり、後に行った保育実習の方が高い評価となっている。より自信が出てきたのであろう。また、評価4とした学生も保育実習Ⅱでは教育実習の約2倍の40%となっている。

最後に実習を振り返り反省を含め感想や今後の課題や意気込み等を記述した内容を集約した。

表7-1 教育実習のふりかえり

反省点	<ul style="list-style-type: none"> * 子ども達を前にすると、緊張してしまいミスしたり思うように演奏できなかった。(11名) * ピアノを弾くことに必死で子ども達に目配りすることが出来なかった。(7名) * 学校の授業で練習した曲以外は練習時間が弾くのが難しかった。(4名)
良かった点	<ul style="list-style-type: none"> * 弾く回数を重ねるごとにだんだん上手になっていった。(1名) * 学校で練習してきた曲は上手くでき、自信がついた。(1名) * 子ども達がしっかり歌ってくれ、先生に褒められうれしかった。(1名) * 経験の大切が十分わかった。(1名)
今後の課題と意欲	<ul style="list-style-type: none"> * ミスなく弾けるようしっかり練習を続けていきたい。(11名) * レパートリーをもっと増やしたい。(9名) * 演奏中に歌詞を先取りして言えるようにしたい。(7名) * 声の大きさ、響き、表現を豊かにしたい。(5名) * 子ども達が歌いやすい伴奏にしたい意欲がわいた。(4名) * 子ども達に目配りしながら演奏できるようになりたい。(3名) * 自信を持って弾けるようになりたい。(3名) * 初見演奏やコード伴奏弾きの力をつけたい。(2名) * 子供達が楽しめるアレンジを加えたい。(1名) * 歌詞をしっかり頭に入れておく。(1名)

表7-2 保育実習のふりかえり

反省点	<ul style="list-style-type: none"> * 子ども達に目配りできなかった。(6名) * 子ども達を前にすると、緊張してしまいミスしたり思うように演奏できなかった。(5名)
良かった点	<ul style="list-style-type: none"> * 以前より自信を持って弾くことができた。(4名) * 回数を重ねるごとにだんだん上手になっていった。(2名) * 楽しいと感じることができた。(1名) * 子ども達への目配りができた。(1名) * 経験が自分の力になった。(1名) * いろいろな指導を学んだ。(1名)
今後の課題と意欲	<ul style="list-style-type: none"> * 子ども達への目配りできる余裕を持ちたい。(17名) * もっと練習していきたい。(9名) * レパートリーをもっと増やしたい。(5名) * 経験をつむ必要性を感じた。(3名) * しっかり声を出していきたい。(2名) * 子ども達が歌いやすい伴奏にしたい。(1名) * 音楽の楽しさを伝えたい。(1名) * 年齢に応じた曲を考える必要がある。(1名) * 原曲伴奏の大切さと必要性を感じた。(1名)

教育実習、保育実習ともに反省点の一番に挙げられたことは実際の子どもの前で、緊張し演奏がうまくいかなかったことである。学内ではしっかり練習しきちんと仕上げることを指導しているが、ともすれば「指導が厳しい」、「なかなか合格がもらえない」といった学生の声も聞かれるが、現実に直面して本

当に練習の大切さを痛感している。しかし演奏がうまくいったときは喜びや達成感、実習中での経験を重ねるご自分自身が成長していていることを感じている。教育実習より、夏の保育実習での活動にその自信やプラス面を実感している。今後の課題に関して、教育実習ではとにかくミスなく弾くことに関

心がいっているが、保育実習では「演奏中に子ども達への目配りする」ことを多くの学生が挙げている。演奏と共に子ども達の姿にも注目することに意識を持つ様になった点は成長したといえる。学生たちの今後の課題と意欲は具体的な内容となっているのは、実習での経験を経たからこそであろう。

今川恭子（2017）音楽を学ぶということ 教育芸術社

まとめ

教育実習および保育実習での学生の音楽活動についての実態を、質問紙の回答を基に確認し考察してきた。自分自身の実力の把握と子ども達と音楽を共有できる楽しさを身をもって認識することのできる実習での活動の意義は大きい。あくまで学内での研鑽があつてこそ実習での経験が学生の成長と今後の意欲につながることを実証できた。とは言え、ピアノ技能の向上は短時間では難しい事は当然である。学内での地道な学生の練習とそれを支える教員の指導の両輪があつて初めて、実習や就職した時、自分自身で新しい曲に取り組める力になる。また学生が実力をつけ自信を持つことが子ども達と一緒に音楽を楽しむという本来の姿につながるものである。授業における弾き歌いの課題曲の選曲や設定曲数も実習時期や期間、学生の技能レベル等も考慮に入れ、随時変更している。今回の調査で一定の効果が現れていると感じるが、さらに見直していきたい。

今後の指導課題の1つとして、原曲伴奏といわゆる簡易伴奏との問題がある。現場では原曲伴奏はもちろんのこと、園行事の際には聴き映えのする豪華な言わば難しい伴奏譜を使用するなどしているところもある。一方学内ではピアノ初心者向けに、弾きやすいようにアレンジした楽譜も用意しとてかく課題の曲を弾きこなせるようにしている。一概に簡単にした楽譜がいけないことはないが、実習ではともかく就職後のことを考えるとどうであろうか。原曲伴奏を基本に子ども達への表現を育む過程で臨機応変にシンプルな伴奏もとりいれながら弾けることが理想である。そのためにやはりピアノ技術の基礎力が不可欠である。音楽を子ども達が生活の中で楽しむためには将来先生となる学生が、自分の音楽活動が子ども達に与える影響を忘れることなく練習に励むようにサポートしていくことが大切である。

参考文献

- 文部科学省 平成29年3月 告示 幼稚園教育要領
厚生労働省 平成29年3月告示 保育所保育指針

